



■我が身に引き寄せて考える

3月11日、北関東、東北地方を襲った大津波の爪痕はインターネット上ではTV報道以上の、実に多くの映像が記録されている。いまだ正確にはつかめていない2万数千人とも3万ともいわれる犠牲者数が確定するのは10年以上かかることだろう。

これだけの天災を受け国の風紀が乱れないことは素晴らしい日本人、と諸外国から賞賛されてもいる。被災地救援のために多くの義援金募集活動が全国規模で起こされ、この記事を書いている時点、震災発生後一ヶ月足らずでも日赤と中央募金会に寄せられた義援金は1,150億円を突破。記録はさらに塗り替えられるであろう。一方でそれら義援金、物資がうまく回っていないとも報道されている。

震災をさらにややこしくしているのが福島原発事故。安全神話が崩壊したこの事故の顛末次

第では何十年も人の近寄れない地域になるかもしれないと聞かされれば、暗澹たる思いと共に東南海地震が絵空事ではなくなってきた。しかし、未曾有のこの大震災も現地の立て直しへの歩みは確実に進んでいる。

■支援が必要だからする

50万人にも及ぶかも知れな

受け入れ表明、保健師派遣など次々と要請に応えてきた。義援金募集はまだ続くかも知れないが、これらは必要だからすることであって、決して被災地に縁があるからではない。

■するべきを見直してみる

被災現地の復興は長く厳しい道のりだ。現地の様子も全国民

震災直後一定の時間が経過すれば、被災地ではない自治体においては、むしろそれぞれ独自の取り組みの支援がお互いの将来につながってゆく。

■自治力が試されている

我が町に関して言えば、一つの方法論として集めた義援金を町が全て管理し、被災者受け入れ後の一定期間の生活費をまかなう原資にするなどの使い方もあるだろう。移住者が居なければ改めて現地へまわせばいい。

被災地を離したい人々に、まずは全面的に当面の生活を支えますよと伝えることは、被災者の移住に対する垣根を低くし、心の立て直しに寄与しないだろうか。被災者には我が町を新天地として、受け入れる側にあっては自分たちの醸金がどのように使われているかが目に見える。

誰かがしたことをなぞるのでなく新しい動きを生み出そう。

このたびの震災アフターは私たちの自治力が試されている。

(平山和昭)

我が町の未来につなぐ

大災害に学ぶ支援のありかた

い罹災者に今後どのような未来が待っているのかは誰にもわからない。多くの人々が故郷を離れたり移住を余儀なくされるであろうことは想像に難くない。

我が町でもいち早く支援活動に取り組み、消防職員と機材の現地派遣、自治体からの義援金一千万円、社会福祉協議会と協働した防災士連絡協議会の義援金街頭募金19万7千余円、救援物資の姉妹市への搬送、被災者

に共有されている。全国規模で支援、救援活動が展開されているものの、では義援金を集め日赤に届けるだけ、現地に物品を運びこみ下ろしてくるだけの支援のありかたで本当にいいのだろうか。

被災地の復興ということについて、被災地ではない我が町がこの震災にどう向き合うかということは、町の自立力を測る物差しのように思う。

島波瀬戸内景
 Shinichiro Kobayashi Photo Exhibition
 小林伸一郎写真展第二章
 2011年3月19日[土] ▶ 5月8日[日]

なかた美術館

TEL : 0848-20-1218
 広島県尾道市潮見町6番1号
<http://www.nakata-museum.jp/>

郵便はがき

7 9 4 2 5 0 9

おそれります
お貼りください

愛媛県越智郡上島町
 弓削土生318-2
 平山和昭方
 弓削通信 行

「なかた美術館」で開催されている小林伸一郎写真展では、弓削島のよい写真がたくさんあるのでぜひ島の皆さんに知させて欲しいとの館長のメッセージが添えられていました。

おしらせ

二〇一〇年(平成二二)復刊した弓削通信を「フェニックス」と名付けた。毎月手配りで(一部新聞折り込み)弓削・佐島全戸にお届けしてきました。その予定で具体的活動が始まれば決まった時期に「フェニックス」を設立登記する。手配りするのに明記する。(仕分けの手間を省くため)

原発さえ無事ならばすべての力を復興のために注げるのに。CO₂の発生もなく燃料は再利用でき、安全、といいことづくしの原発が、想定外の天災にななすべもない。

種をまく畑を、漁に出る海を、愛するふるさとをうばい、これ以上原発反対の理由はいらぬ!と声を荒げるのは

新聞を片付けていたら一番下に三月十一日の新聞があつた。出来るなら時計を戻してほしい。連日の報道には胸が痛み被災された方々にはかける言葉もみつからない。

青木喜代子

きごくち(十二)

後回しにしよう。

タスキ・プロジェクト(大切
な友だちにささやかなプレゼントを!
心をこめて)

阪神淡路大震災の遭難者らでつくるNPO法人の呼びかけで知った。

何と素敵なお友だちにささやかなプレゼントを!心をこめて。これなら私も出来る友人に届くのだろう?笑顔になつてくれるだろうかと、考えてみると痛かった胸が少し和らいで、なんだか私が元気をもらつた気がする。

③自分の名前、メッセージを忘れずに。



日暮れどき「こんなでいい?」と大きな袋を三つも届けてくれた知人がいる。「私くらいの年齢の人もいるよね」と確かに・・・。私の友人は立派なアラ選ばか

り。三十代の彼女のフットワークの良さに、心からありがとうである。きっと心は届くよと。私はこの場を借りて御礼申し上げます。これまで配布にご協力いただいた

都会から島へ、宮畠さん

三月末、弓削島に一家で移住してこられた宮畠さん。おふたりとも生まれは神戸。奥様の父君が上弓削出身。夫君は東京の編集事務所に所属し、小学三年男子。若者の田舎暮らしのモデルケースとして期待したい。



宮城県大崎市古川西館 本田義幾
 大地震・大津波・放射能お見舞い申し上げます
 予期せぬ大災害に道鏡を守る会会員の多くもこの難題と向き合っています。そのため供養祭開催もあやぶまれましたが、私たちは負けないぞという気持ちをこめて規模は小さくなるかもしれません、例年どおりやりますので、都合のつく方は是非ご参加下さい。

なお当日の中身に多少の変更がでてくるかもしれません、その場合はご了承ください。また当日 11 時より役員会食をひらきます。どなたも参加可。

当日昼食希望者は田中美好氏まで

元気になりました

東日本から
おたより

未曾有のこの大惨事、あたたかくからあとから流れれる映像。
 貴い言葉に感謝です。仕事は生きねばと云う。仕事は生きねばと云う。仕事は生きねばと云う。
 古希になりました。我々も来年になりますが少しがつたるくなりまし。

(東京M)

島に住みたい
life is beautiful



安藤朋生 氏
茨城県

訳すと『人生は美しい』。

こんな状況下で何を言うと思われるかもしれませんし、不謹慎なのかもしれません。でも、こんな時だからこそ人生は美しいと思いたい。

後ろを見たって今までの景色があるわけじゃない。前進してまた1からやり直して、また新しいものを造り生まるることは、やはり美しいと思うのです。

3.11 私自身も被災しました。

勤務中に地震にあり、その影響で工場は操業停止。4月4日から他県の工場に向りました。でも家族や家は無事でしたし、断水も停電も2日後には復旧。そう考えれば出向など大したことじやない。今までの生活がどれほど幸せだったのか改めて感じる瞬間でもあるわけです。

新聞を読んでいて1人の女の子が目に留まりました。1人1人今の心境を一言かいた画用紙を持っているんです。『家は流されておばあちゃんは亡くなつたけど、元気です』『早く学校に行って勉強がしたい』『医療は充分じゃない。病



⑨

津波で流された地域の再建、原発による風評被害、電力不足に水不足。多方面に渡り被害の大きかった今回の震災で、

個人的に心配になったことは精神疾患のある方達がちゃんとフォローされているかどうか。不安定な心は恐怖心を煽ります。落ち着いた生活を取り戻せるよう祈るばかりです。

小さな器の中に季節や雄大さを表現する盆栽に、沢山の諸外国から勤勉で真面目な種族と称されている日本。その日本に桜の頃が到来します。美しい日本の風景を取り戻しましょう。life is beautiful 人生を美しいものへかえよう。

集団移住

<< 作成日時 : 2011/03/28 13:05 >>

これは地方特有のモノです。

人と人との繋がりが強く、お互い様精神で育んできた仲間達。

どんな時も、家族同様に助け合って来た仲間達。

私のブログからも、地域のつながりが見えていたと思います。

「今後も彼らと一緒に再建してみたい」

そんな思いが強いのです。

今は私の実家に身を寄せている私達。避難民化している、かつての地域の人達が氣がかりです。ですから、私のやるべき事として、彼らの為にも被災現場へ戻っているのも一理あります。ヨソ者の私ですが、「可能ならば、かつての仲間達とやっていきたい」と思っています。

愛媛県上島町のトラック

<< 作成日時 : 2011/03/31 10:11 >>

愛媛県上島町。ここは SH 家のルートでもあります。

今朝、寝処から前線基地に向かう途中、常磐道・いわき中央 IC 付近で、『愛媛県上島町』から救援物資を運んでいるトラックを追い越しました。ちょうど片側二車線から一車線になる手前です。

4 トン車二台での救援物資の輸送をしてくれていました。

今朝の当社バス二台の運転は別の者がしていましたが、私はシャッターチャンスを逃してしまいました。

トラック二台には、5~6 人の方が乗っておられ、一瞬だけ目が合いました。

上島町からざっと片道 1200km はあると思います。本当に涙が出る思いです。そういう事を考えると、(震災前の私は)「一体、何をしていたのだろう…」と思います。

ともあれ、遠く離れた上島町の皆さん、関係者の方々、トラックを運転して来てくれた方々に、この場で御礼申し上げます。

▲北関東。東北地方の大震災では身内のヤングが被災した。被災後一週間の避難所生活を経て東京の実家に無事避難できたが、旬日を置かずして現地へ舞い戻った。本来の業務とはちがう物資輸送隊として活動するためだが、九死に一生を得てなお現地で活動したい思いには、その場でよい人間関係が築かれていたからだろう。

記事は本人のインターネットブログからの転載。

新聞を購読されてなく配達を希望の方は下記にご記入の上ご投函下さい。

ご芳名

ご住所

電話番号

よろしければ弓削通信フェニックス、その他に關しご意見をたまわります。